

第 288 回

エフエム石川放送番組審議会議事録

議 題

業務概要の報告

試聴と質疑・意見交換

令和元年 10 月 3 日

株式会社エフエム石川

第 288 回エフエム石川放送番組審議会

1. 開催年月日 令和元年 9 月 11 日

2. 開催場所 エフエム石川本社

3. 委員の出席

総委員数 8 名

出席委員数 5 名

出席委員の氏名（50 音順）

委員長 ：柳澤良一

委 員 ：工藤彩子、久保 勉、新田陽子、平木孝志

放送事業者側出席者氏名

代表取締役社長 平田 信也

放送部長 安地 昭博

4. 議題

業務概要の報告

番組試聴と質疑・意見交換

議事内容

【業務概要の報告】

業務概要として、9月1日の「防災の日」に「防災ハンドブック 2019」を3万部発行し、県内の中学1年生と小学4年生全員に配布したことが伝えられました。

放送番組としては、8月3日に川北花火の中継番組「ミッドサマーファンタジー2019」をお送りしたこと。8月25日と9月1日の2週に渡って「村上 RADIO～村上 JAM Special Night～」を放送したことが報告されました。

イベントとしては、8月3日に小松市の九谷セラミック・ラボラトリーで「夏休みだヨ！親子絵付け体験！」を開催し27組の親子が参加したこと。8月25日に金沢市の金石海岸で「ビーサン跳ばし世界選手権」を開催し、60チームが参加したこと。8月25日に金沢勤労者プラザで「夏休み親子パン作り講座」を開催し、10組の親子が参加したこと。9月1日に金沢市のしいのき迎賓館で「マネーセミナー」を開催し、58名の女性が参加したことが伝えられました。また、9月6日には金沢市片町のダブル・カナザワでダンスイベント「BIKINI NIGHT 2019」を開催したことも報告されました。

【番組の試聴と質疑・意見交換】

【試聴番組】

番組タイトル： ラジドラ BOX ホラー特別編～ホテル黒猫へようこそ

放送日時： 8月11日(日) 19:00 - 19:55

出演： 永野（お笑い芸人）、小林タカ鹿（俳優）

脚本監修 北阪昌人（ラジオドラマ脚本家）

【番組内容】

ラジオは「想像力」のメディアと言われますが、どのくらい「音だけ」で人の心に入り込めるのでしょうか。そんな実験の場としてスマホアプリ「JFNPARK」で展開中の企画『ラジオドラマ専用コンテンツ「ラジドラBOX」』のホラー版です。日本各地の農村で行われていた民族芸能「盆狂言」の伝統を引き継ぐと言われている怪談話をお盆の時期にラジオドラマとして全5話をお送りしました。

■平木委員

結論から言うと、どのお話もあまり怖くありませんでした。ラジオらしく語りと擬音で感じ取れるように工夫したり、出演者はそれなりにがんばって感情を込めて話していましたが、私にはあまり伝わってきませんでした。例えば、

風景描写、空気感、風の音、植物の香りなどをもっと表現して欲しかったです。また、出演者の個性をもっと出して欲しかったです。その物語ならではの味わいが出ておらず、ただ台本を読んでいるように感じました。物語は第4話と第5話が良かったですが、山場がありませんでした。徐々に盛り上がる恐怖感があれば良かったと思います。また、雨やドアの音が入ってはいましたがありきたりな音で残念でした。車にひかれた時のキーという音を出すとか、怖いBGMを使うなど、もっと仕掛けが欲しかったです。語りの力量も足りないと感じました。

■工藤委員

番組が目指すコンセプト通り、ラジオしかできない実験的な番組だと感じました。良かった点は、1話10分程度で聞きやすかったところです。1話完結なので初めて聞いた人でも内容が分かる点はラジオに向いていると思います。ただ、平木先生がおっしゃった通り、あまり怖くはありませんでした。また、全体的に話の方向性がバラバラでした。キーワードである「ホテル」や「猫」を活かした物語にして、統一感を出してほしかったです。また、今は猫ブームなので、「黒猫が怖い」というイメージがなくなっていることも、怪談らしくなくなってしまう要因だと考えられます。また、10分間ではキャラクターの魅力が伝わってきませんでした。オチがよく分からない話もあり、怪談らしさが感じられず、全体的に消化不良気味でした。今後は支配人や黒猫にもっと存在感をもたせ、「笑うセールスマン」のように出てくるだけで怖いキャラクターを出すなどの工夫をして欲しいです。また、ラジオらしい効果音を使った展開を期待したいです。

■久保委員

お盆の夜に放送されたということで、あえて夜中に聞いてみました。怪談なのだろうと思い聴きましたが、怪談ではありませんでした。1話目のオチは分かりませんでした。2話目はよくある展開で内容もありきたりでした。3話目は設定が非現実的過ぎて無理がありました。4話目は先が読めてしまい、オチが予想通りでした。5話目は最後まで聞けましたが、物足りなかったです。なぜそのような感想を持ったのか自分なりに分析してみたところ、お盆らしい怪談を期待してしまったため、内容の違いに拍子抜けしたのだと思います。例えば日本昔ばなしのような内容にすれば、若者にとっては新しく感じられ評価されたのではないのでしょうか。一方、ラジオらしく音で伝えるオムニバス形式の番組内容は、実験としては良い試みだったと思います。しかし、しっかり聞かないと内容が伝わってこなかったため、ラジオの良さである「ながら聞き」を

することができず、聞いていて疲れました。実験的な番組ならではの難しさを感じました。

■新田委員

今回のプログラムは怖い話だという先入観があったからだと思いますが、全5話を聞き終えても残念ながら怖いとは感じられませんでした。昔から耳にする怪談話や、音響効果による緊張感など、音声だけでリスナーを怖がらせるような、ラジオにしかできない手法にもっとチャレンジして欲しかったです。また、小説のような情景描写は、ラジオドラマでは違和感を覚えました。語り口調でセリフのように表現した方が自然だったのではないのでしょうか。また、第2話は分かりやすいストーリーでしたが、最後は突然終わってしまいびっくりしました。第3話はある意味オチはホラーでしたが、笑ってしまいホラーとは言えません。キスの味についての話は、この短い時間では不要だったのではないのでしょうか。第4話は花の描写が多かったので自然と花のことばかりがイメージされ、肝心のストーリーが頭に入ってきてませんでした。第5話は見知らぬ誰かがドアを叩く様子は、主人公の緊張感が伝わってきました。各回とも放送時間が8分ほどのオムニバス形式となっていて、聞きやすい長さでした。前回の放送を聞いていないリスナーが初めて聞いても、番組を楽しめる点は良かったです。ただし、全編を通じて登場するオーナーの黒猫と支配人に強烈な個性があった方が、各回に統一感が出て良かったのではないのでしょうか。実験的な放送から得た意見を次の作品に活かし、次はぜひリスナーを怖がらせる番組を作ってほしいです。

■柳澤委員

普段ラジオを聞くときは何か別のことをしながら聞いている人が多いと思います。そう考えると、1話目は内容がわかりづらかったため、もったいなかったと思います。話の内容や人を引き込む音、音楽を使って、ラジオを聞く人を引き込む工夫が欲しかったです。そうすれば、この実験的な番組は良い評価を得られるのではないかと思います。昔話などよく知られた内容で番組を作った方が聞いてもらえるのではないのでしょうか。また、五感を統一テーマにするのは難しさを感じました。更に、物語を作る人が全て違っているため、尚更良い番組にするのが難しいと思います。いい番組だとは思いますが、聞いてもらうための工夫がもっと必要のように感じられました。全体としては評価が難しいという意見だと思います。

【審議会の答申、または改善意見に対してとった措置】

制作者に内容を伝達

[議事の概要を公表する場合の日時や内容]

第 288 回番組審議会の議事概要の公表

令和元年 9 月 21 日(土) 19:55 ～ 20:00 に放送

掲載書面の備え置き、及びインターネット・ホームページへの掲載